

## 実績概要 (ホームページ掲載用)

研究又は活動のテーマ	自治体による立地適正化計画の目指す都市構造 ～誘導区域における魅力向上施策に着目した基礎的研究～
助成事業者	鹿児島工業高等専門学校 都市環境デザイン工学科
代表者	山本 聡
<p>(目的)</p> <p>2014年の「立地適正化計画(以下、立適計画)」制度の創設を受け全国686の自治体において立適計画が作成・公表されている。立適計画はコンパクトな都市づくりを目的に施策や事業によって都市機能誘導区域の「魅力」を高めることでその周辺に設定された居住誘導区域に居住人口の集約をはかる高度版市町村マスタープランである。続く2020年、立適計画にもとづく事業を集中的に支援する「都市構造再編集中支援事業」が従来からの都市再生整備計画(以下、再生計画)の中に創設された。これにより自治体が独自性と実効性を持ってコンパクトな都市づくりを計画できる制度環境が整った他方で、特に財源が限られ、都市のコンパクト化が喫緊の課題である地方都市にとっては、それをいかに有効に活用するか、すなわち「戦略」が問われていると言える。本研究は各自治体の今後の立適計画や再生計画の策定や改訂の参考となる基礎的な資料提供を目的に、全国各自治体の立地計画及び再生計画における魅力向上に資する事業を網羅的に調査・整理し、その戦略傾向を明らかにする。本調査は全国調査に先駆けて実施したものである。</p>	
<p>(概要)</p> <p>1) 調査概要</p> <p>立適計画を公表している7自治体及び再生計画書を公表中の3自治体5地区を対象とした。これらの対象自治体から立適計画及び都市マスタープラン、再生計画書をはじめとした各種計画書を収集し、国土交通省・総務省が公開する都市施設や人口等の統計資料も加えて文献調査を行った。また各自治体担当部局を訪問し(令和6年1月)、立適計画作成の経緯、実施または計画中の事業、都市の現状等に関するヒアリング及び現地調査を実施した。</p> <p>2) 研究の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 各自治体の設定した誘導区域をマクロ的視点から捉えるために、対象都市の概要と誘導区域の設定状況、さらにGISを用いて誘導区域の空間分布を整理した。</li><li>② 再生計画書をもとに計画地区の概要(地区特性、計画範囲、誘導区域との関係)を整理した。</li><li>③ 各計画地区においてどのような地区像を目指しているかを捉えるために再生計画書に掲げられた計画目標を分類した。</li><li>④ 計画目標の実現に向けてどのような事業が計画されているかを捉えるために計画目標と事業の関係を現地調査の結果も加えて整理した。さらに、再生計画における各種事業に関し、GISを用いて地図上にそれらの位置をプロットし空間分布を確認した。</li></ol> <p>3) 得られた知見と今後の展望</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① 都市機能誘導区域の規模は限定的で分布は1つにまとまったもの、島状に分布したものがある。</li><li>② 再生計画における計画目標が、にぎわいの創出、交流の促進、回遊性の向上に集中している。</li><li>③ 基点的、線的な整備が一体的に計画され、その結果、都市誘導区域の一角の面的な整備につながる傾向がある。</li></ol> <p>今後は以上の知見をもとに全国を調査対象とする。</p>	